

R7 加茂市橋梁(農道 1 号橋・農道 2 号橋・農道 3 号橋・砂田橋)

補修設計その 1 業務委託

特記仕様書

第 1 章 総則

第 1 条 適用

本特記仕様書は、R7 加茂市橋梁（農道 1 号橋・農道 2 号橋・農道 3 号橋・砂田橋）（以下、「本業務」とする。）に適用する。また、本業務の遂行にあたっては、「契約書」、「本業務特記仕様書」および「新潟県測量・設計・調査業務委託標準仕様書」（以下、「標準仕様書」とする。）によるものとする。

第 2 条 業務目的

本業務は以下に示す 4 橋について、各部材の損傷の修繕を行い、健全性を回復させること及び点検結果から損傷の進展を抑制する予防保全対策を実施することを目的とする。

・対象（別紙点検調書参照）

- ① 一級河川下条川に架橋されている市道宮浦線「橋梁番号 046-0 農道 1 号橋」
- ② 一級河川下条川に架橋されている市道住寺堀天神林線「橋梁番号 049-0 農道 2 号橋」
- ③ 一級河川下条川に架橋されている市道下条川左岸線「橋梁番号 056-0 農道 3 号橋」
- ④ 一級河川下条川に架橋されている市道下条川右岸線「橋梁番号 059-0 砂田橋」

第 3 条 履行場所

本業務の履行場所は、加茂市天神林ほか 地内とする。

第 4 条 使用図書

本業務で使用する図書は、標準仕様書第 1201 条に示す「最新の技術基準及び参考図書」によるものとする。

第 5 条 貸与資料

本業務の貸与資料は以下のものとする。

- (1) 工事図書関連
- (2) 橋梁台帳

(3) 橋梁点検調書

(4) その他業務履行上必要な発注者の所有する資料

第6条 管理技術者

管理技術者は、本業務を遂行する上で技術上の管理を行うに必要な能力と経験を有する技術者で、建設部門（選択科目：鋼構造及びコンクリート）の技術士、RCCM（鋼構造及びコンクリート）、又はこれと同等以上の能力を有する者でなければならない。

第7条 緊急対応の判断

調査する橋梁に第三者等へ被害の恐れが懸念される状態、構造上安全性が著しく損なわれている状態等が確認された際は、速やかに監督員に報告し、対応を協議する。

第8条 安全管理

交通状況に即した適切な保安施設を設けるなどして、安全管理に努めるものとする。
緊急連絡体制を事前に構築し、その体制に基づいて事故発生時等は迅速に必要な対応を行うものとする。

第9条 疑義

受注者は、作業の実施に当たり疑義が生じた場合には、監督員と協議を行うものとする。

第2章 業務内容

第10条 業務内容

本業務の内容は、以下のとおりとする。なお、以下の項目以外の作業の必要性が生じた場合は、別途監督員と協議を行うものとする。

1 業務計画

受注者は、契約後速やかに橋梁補修の実施体制を整え、必要な資料の収集、現地踏査計画を検討し、標準仕様書第1112条に基づいて、業務計画書を作成し、監督員に提出するものとする。

2 既存資料の収集・整理

業務に先立ち、設計（竣工）図書、点検資料等の貸与資料や既存の関連資料を収集し、整理を行う。

3 現地踏査

既往資料をもとに現地踏査を行い、損傷程度の概要、既存の補修対策状況、添架物・支

障物件の有無、周辺状況、施工性を確認し、補修設計の計画立案に必要となる基礎的状況を把握する。また、詳細調査時に必要となる資機材の確認や運搬経路、交通量、想定される交通規制(交通整理員の配置人数等)、橋梁の劣化程度、その他調査を実施するために必要な現場の概況を確認する。

4 一般図作成（現地計測による復元）

補修設計に必要な図面（一般図）を作成する。

既存資料（建設時の竣工図や過年度調査成果等）が無い場合は、構造形式を確認し、必要寸法を測定のうえ一般図を作図する。

5 対象工種の選定及び修繕後の部材健全度設定

過年度点検の概略対策計画一覧表をもとに、現地踏査や詳細調査で確認した対象橋梁の損傷状況や損傷原因から、修繕が必要な部材を抽出し補修設計工種の選定を行う。

抽出した部材の修繕後の健全度を損傷の進展状況や更新時期を踏まえ設定する。

また、確認した損傷状況から橋梁の損傷の進展を抑制する予防保全工種（地覆の水切り、床版防水、表面被覆、桁端部等の塗装の増塗り等）についても、検討を行う。

選定結果については、監督員の承認を得るものとする。

6 関係機関協議

調査・補修設計に必要となる関係機関ごとに、協議、諸手続き、資料収集および協議資料の作成を行う。ただし、河川占用許可申請書の作成が必要となる場合は、別途、監督員と協議のうえ、設計変更の対象とする。

7 塗装塗り替え工

塗装仕様は塗装の劣化状況に合わせて決定し、劣化しやすい桁端部や下フランジ、添接部等については、別途検討を行い、現橋図に基づいた塗装構成図を作成する。また、塗装面積が不明な場合は、数量を算出する。

（対策工法及び材料の比較・検討、設計図作成、数量計算、照査、報告書作成）

8 当て板補修工

確認された損傷について、点検・調査結果に基づき、補修工法の比較・検討、設計図作成、数量計算を行う。

（対策工法及び材料の比較・検討、設計図作成、設計計算、数量計算、照査、報告書作成）

9 支承補修設計

腐食等が発生した支承の防食機能の回復を目的とした補修設計を行う。対策工法は塗装塗り替え（金属溶射を含む）を想定している。

なお、設計に先立ち、防食仕様の検討を行うこととする。

（対策工法及び材料の比較・検討、設計図作成、数量計算、照査、報告書作成）

10 支承取替設計

機能障害が発生しており、防食だけでは、機能が回復できない鋼橋の支承の取替設計を行う。

なお、上部工反力の算出や施工に必要となる主桁・横桁・端対傾鋼等における支点上補剛材の設計、橋座耐力照査を含むものとする。

ただし、ジャッキアップのためのブラケット等が必要となる場合は、別途、設計変更の対象とする。

（対策工法及び材料の比較・検討、設計計算、設計図作成、数量計算、照査、報告書作成）

11 施工計画

補修工種全体の施工順序、施工要領、概略工程表、仮設足場図を作成し、施工時の留意点等を取りまとめる。

なお、跨道橋等の交差施設が特殊な場合は別途、監督員と協議のうえ、設計変更の対象とする。また、河川橋における等流計算による流下能力、水位の検討程度を含むものとし、不等流計算による検討が必要となる場合は、別途、監督員と協議のうえ、設計変更の対象とする。

12 概算工事費

監督員から近年の工事の費用の資料を受け取るなどを行い、補修工種ごとに概算工事費を算出する。

第11条 設計協議

設計協議は、「業務着手時」、「中間時」、「成果品納入時」の3回を予定し、管理技術者が立ち会うものとする。業務に関する打合せ記録の整理は受注者が行うものとし、打合せ後は速やかに提出すること。

その他、追加の協議ならびに関係機関協議への同席が必要となった場合は、別途変更契約にて対応とする。

第3章 成果品

第12条 成果品

本業務の成果品は、以下のとおりとする。

- (1) 報告書 (A4 版) ※縮小図面、電子媒体を含む：2 部
- (2) その他監督員の指示するもの。

第4章 雑 則

第13条 履行期間

本業務の履行期間は、契約の日より令和8年3月13日までとし、工期を厳守すること。

以 上

(参考) 歩掛見積項目

1. ～6. については、橋梁ごとに積み上げてください。

作業内容	主任 技術者	技師長	主任 技師	技師 A	技師 B	技師 C	技術員
1 業務計画							
2 既存資料の収集・整理							
3 現地踏査							
4 一般図作成							
5 対象工種の選定及び部材 健全度設定							
6 関係機関協議							
補修設計（7 塗装塗替え工・ 8 当て板補修工・9 支承補修 設計・10 支承取替設計）							
対策工法の検討							
設計計算 ※10 支承取替のみ対象							
設計図作成							
数量計算							
照査							
報告書作成							
1 1 施工計画							
1 2 概算工事費							
打合せ協議							
業務着手時							
中間時							
成果品納入時							